

TOPICS & INFORMATION

# 2023JPBA最終ランキング 19歳・中島瑞葵が史上最年少の3冠女王に!



▲史上最年少の3冠女王に輝いた中島は、同時に全日本タイトルも制して金枠ワッペンをゲット

プロ選手権も制してシーズン5勝を挙げたプロ3年目・19歳の中島瑞葵が史上最年少の3冠女王に輝いた。

「正直、今年の全日本は優勝より3冠を意識していました。大会前に3部門ともトップだったし、滅多に訪れるチャンスではないと思うので、取り逃したらこの先はもうないだろうと。3冠のうち、ポイントとアベレージは1年間の積み重ねなので、とくにうれしいですね」(中島)

2023年のJPBAレギュラーツアーは、第55回全日本女子プロ選手権(12月14~16日、新狭山グランドボウル)をもって全日程を終了し、ポイント・アベレージ・獲得賞金3部門のランキングが確定した。男女のポイント上位者(来季シードプロ)は別表のとおり。

女子はGlicoセブンティーンアイス杯、ちゃおちゃおボウリング大会、ラウンドワンGCB・JPBA決勝大会、千葉オープン、さらに最終戦の全日本女子

プロ選手権も制してシーズン5勝を挙げたプロ3年目・19歳の中島瑞葵が史上最年少の3冠女王に輝いた。

7月の大岡産業レディースで通算6勝目を挙げたプロ7年目・23歳の坂本かやが3年連続の2位。3位には新人戦と山梨レディースを制した今年デビューの新人、18歳の石田万音が食い込み、Z世代のプロが上位を独占した。

一方、昨シーズンまで3期連続3冠女王の座にあった姫路麗

は、千葉オープンアンバーサリリーとJPBA☆SSSカップで2勝したものの、勝負をかけた全日本で6位に終わり、ランキングは5位まで後退。女子のトップ戦線はこのまま世代交代が加速していくのか、それとも姫路を筆頭とする歴戦のベテラン勢がもうひと花咲かせるのかが、来季の注目ポイントだ。

「3強」の勢力図は変わらず 男子は関西オープン、ジャパンオープンで2勝を挙げ、通算19勝として永久シードに王手をかけた山本勲が2年ぶり6度目のランキングトップに返り咲き、アベレージと合わせて2冠王に。優勝400万円のラウン



▲ポイント&アベレージ2冠王の山本(左)と賞金王の川添、藤井を含む「3強」の牙城は今季も揺るがなかった

ドワンGCBファイナルを制した川添奨太が賞金王となり、昨年初の3冠王に輝いた藤井信人は3部門で2人に次ぐ3位にとどまったが、10年以上にわたってトップの座を分け合ってきた「3強」の勢力図は今季も変わらなかった。

だが、男子にも少しずつ若い力が芽吹いてきている。プロ3年目・21歳の坂本就馬(坂本かやの実弟)が新人戦とプレイヤーズ・

ドリームマッチで一気に両目を開けてランキング10位に躍進。昨年2勝した6年目・27歳の水野耕佑(水野成祐の実息)も東海オープンで3勝目を挙げた。

今年デビューの新人のなかでは、初出場でいきなり全日本のタイトルを手中にした宮澤拓哉のほか、藤永北斗が22位で

2023JPBA最終ポイントランキング						
●女子						
順位	氏名(期別)	ポイント	アベレージ	獲得賞金(円)	勝率(勝/総)	勝率(勝/総)
1	中島 瑞葵(53)	5,021	221.59	9,675,000	8(5)	
2	坂本 かや(49)	3,913	221.02	4,133,000	6(1)	
3	石田 万音(55)	3,822	219.54	4,824,000	2(2)	
4	大根谷 聖(45)	3,510	217.19	3,826,000	4(1)	
5	姫路 麗(33)	3,464	217.47	3,947,000	33(2)	
6	菊出 佳奈(50)	3,456	219.50	3,600,000	2(1)	
7	寺下 莉音(47)	2,866	216.92	2,153,000	6	
8	近藤 聖帆(55)	2,830	214.45	3,126,000	1(1)	
9	久保田彩花(48)	2,773	214.67	3,373,000	5(1)	
10	川崎 由麻(48)	2,516	213.54	3,517,000	5(1)	
11	名和 秋(35)	2,476	212.60	5,895,000	4(1)	
12	大嶋 有香(49)	2,064	212.80	2,920,000	2(1)	
13	小久保実希(47)	2,006	211.90	1,196,000	0	
14	宇山 侑花(48)	1,670	211.53	1,105,000	1	
15	安藤 麗(43)	1,441	209.52	940,000	0	
16	原野 萌花(53)	1,384	207.14	995,000	0	
17	松永 裕美(37)	1,315	211.38	907,000	16	
18	丹羽由香梨(35)	1,278	211.15	948,000	1	

  

●男子						
順位	氏名(期別)	ポイント	アベレージ	獲得賞金(円)	勝率(勝/総)	勝率(勝/総)
1	山本 勲(44)	5,146	226.36	5,513,400	19(2)	
2	川添 奨太(49)	3,785	224.89	6,507,300	21(1)	
3	藤井 信人(52)	3,284	224.69	4,981,500	11(2)	
4	谷合 貴志(52)	3,103	222.27	3,344,100	5(1)	
5	渡邊 謙也(52)	2,826	221.74	1,754,000	2	
6	藤村 隆史(57)	2,365	217.27	1,337,600	1	
7	斉藤 琢哉(48)	2,211	223.05	2,758,000	3(1)	
8	大久保雄矢(60)	2,128	218.10	1,290,800	1	
9	水野 耕佑(56)	1,951	218.99	1,976,800	3(1)	
10	坂本 就馬(59)	1,912	219.48	2,622,500	2(2)	
11	宮澤 拓哉(61)	1,894	223.45	3,249,000	1(1)	
12	斉藤 拓哉(49)	1,877	220.89	1,103,000	2	
13	小原 麗之(32)	1,843	218.50	3,128,600	7(1)	
14	高田 浩規(52)	1,812	221.90	1,312,600	1	
15	福丸 啓平(48)	1,741	217.89	1,349,000	1	
16	田中 稔也(59)	1,659	216.63	942,600	1	
17	江川 司(57)	1,659	217.43	943,000	1	
18	小林 哲也(48)	1,504	214.28	899,400	0	
19	平岡 勇人(53)	1,488	215.27	1,740,000	1(1)	
20	堀ノ内龍大(54)	1,461	216.58	605,000	0	
21	安里 秀策(59)	1,447	218.26	791,600	0	
22	藤永 北斗(61)	1,401	217.34	1,026,800	0	
23	加藤 拓哉(43)	1,339	217.97	748,000	2	
24	正田 晃也(44)	1,329	213.83	892,000	0	

シード入りを果たし、ナショナルチーム出身者らしい実力を発揮している。女子に比べてトーナメント数が少なく、注目度も低い男子だが、パワーとスキルは上。トップ勢がこぞって参戦する男女混合のio.LEAGUEでの活躍次第では、人気面の挽回も可能だろう。

## JBC 第61回全日本大学選手権

### 男子・沖縄国際大、女子・同志社大が優勝

(公財)全日本ボウリング協会(JBC/北川薫会長)主催の「文部科学大臣杯 第61回全日本大学ボウリング選手権大会」が12月2~4日の3日間、愛知・名古屋グランドボウルにて開催された。

29チームが参加した男子(5人チーム戦/15G)は、同志社大(熊凌汰・菅原奏・松本春樹・斉藤翔・新舎拓己・吉田尚平・田中雄大)と沖縄国際大(中里隆星・又吉海輝・西島本有生・仲間保人・中里隆和・棚原農)のV争いとなり、決勝最終Gでチームハイゲーム賞の1228をマークした沖縄国際大が、66ピン差で首位に立っていた同志社大を逆転。トータル16592で2年ぶり2度目の大会制覇を果たした。

12チームで争われた女子(2

人チーム戦/15G)は、同志社大(戸塚真由・石本恵梨奈・戸塚知菜)と京都産業大(林育美・安田明香里)がわずか2ピン差で最終Gにもつれ込む大接戦の優

勝争いとなったが、最後は471を打った同志社大が401に終わった京都産業大を突き放し、トータル6469で2年連続3度目の優勝に輝いた。



▲男女優勝校(©JBC)

トーナメントカレンダー		
開催日	大会名	開催センター
(アマチュア)		
1月19日(金)~21日(日)	JBC第52回全日本クラブ対抗選手権	新狭山グランドボウル(埼玉)
1月27日(土)~28日(日)	JBC第41回全日本実業団都市対抗選手権	稲沢グランドボウル(愛知)
2月10日(土)~12日(月・祝)	JBC会長杯 第39回全日本年齢別選手権	川崎グランドボウル(神奈川)
(プロ・オープン)		
1月16日(火)~19日(金)	io.LEAGUE2024(前期)	池袋口サボウル(東京)※来場観戦不可

## 短信 「いい夫婦の日・記念トーナメント」全国表彰

(公社)日本ボウリング場協会(BPAJ/武田竜会長)加盟171センターで開催された2023年度の「いい夫婦の日・記念トーナメント」には、2584組5168人の夫婦がエントリー。各センター上位5組の成績を集計した結果、愛知・岡崎グランドボウルの渡辺郁也・麻史夫妻が6G1558のスコアで堂々の3連覇を達成し、優勝賞品として全国百貨店共通商品券5万円分が贈呈された。

## ●第39回全国実業団選抜選手権大会

全国実業団ボウリング連盟(ABBF/坂井芳昭理事長)主催の2023年度最終戦「第39回全国実業団選抜選手権大会」が12月2・3の両日、静岡・藤枝グランドボウルに228名(男子185・女子43)が参加して開催された。競技は男女別のシングルス戦(H/Cあり)で、予選9G・準決勝3G(ゼロスタート)を経て、男子は上位5名、女子は同3名を1Gマッチの決勝ステップラダーに選出。その結果、男子はトップシードの足立燎選手(新潟支部)、女子は2位進出の松木千春選手(柏支部)がそれぞれ優勝を飾った。

## ●第2回全日本デフボウリング選手権大会2023

(一社)日本デフボウリング協会(JDBA/邊見新吉会長)主催の「第2回全日本デフボウリング選手権大会2023」が11月11・12の両日、愛知・名古屋グランドボウルに男子35名・女子18名の選手が参加して開催された。予選12G・準々決勝6G(ゼロスタート)・準決勝3Gを経て、男女とも上位4名を1Gマッチの決勝トーナメントに選出。準決勝1位対4位、2位対3位の対戦を制した2名で優勝が争われ、男子は戸羽康之選手、女子は村野美幸選手と、ともに2025東京デフリンピックのボウリング競技でメダル獲得を目指すナショナルチーム勢が選手権者に輝いた。

当センター専属プロボウラー  
時本美津子プロ

当センター専属プロボウラー  
名和秋プロ

当センター専属プロボウラー  
金子萌夏プロ

当センター専属プロボウラー  
市原電太プロ

当センター専属プロボウラー  
水野すばるプロ

最新の技術・豊富な経験を持つ  
**ドリラー 6名在籍**

**JR横浜線・相模原駅徒歩2分**

# 相模原パークレーンズ

http://parklanes.jp/ TEL.042-755-1110

オンラインショップのパイオニア

今すぐアクセス